

優秀賞

一般建築物新築部門

京都木材会館

京都市中京区



建築主

京都木材協同組合

設計者

株式会社ゆう建築設計事務所

施工者

吉村建設工業株式会社



深い軒庇による外壁面の保護や間取りの自由度と設備更新性の確保

道路に面した外壁部はバルコニーを兼ねた深い庇により保護し、庇の出が浅い1,2階両袖部分は、瓦をイメージした段葺きのガルバリウム鋼板貼りとして耐久性を高めている。また、1,2階は間口方向をラーメン構造とし、将来に渡る間取りの可変性を確保した。更に、建物の構造を耐火性能を確保する部分（柱、梁）とそれ以外の仕上げ部分を明確に分けて計画することにより、構造躯体を傷つけることなく設備配管の更新を可能とし、建物の長寿命化を図っている。



構造材に京都府内産、市内産杉、檜を100%使用した新しい木造デザイン

京都府内で初めての純木造による4階建てを実現し、構造材には京都府内産（内、3-4割が京都市内産材）の杉・檜100%使用している。また、階段のルーバーや建具枠周りにみやこ杉木である北山丸太を意匠的に使用し、地域産材の杉を多用した新しい木造デザインに取り組んでいる。

1階の吹抜けギャラリーには、京町家の改修に携わっている職人による漆喰塗りを採用するなど、リサイクル可能な材料を積極的に採用した。



採光、通風等環境調整機能を持たせた木製ルーバーの設置と「風の通り道」に配慮した住戸計画

2階事務所部分に杉無垢板（無節）を相じゃくりで組み上げたデザインのルーバーを設け、内部の窓から回転させることで日射遮蔽、通風、視線の制御等の環境調整機能を持たせている。木製ルーバーは一枚毎の取替えも可能である。

3,4階住戸の玄関扉は閉めた状態で通風を確保できる鋼製扉を採用し、防火性能、プライバシーを満たしながら、平成の京町家の特徴の一つである「風の通り道」を確保した。

